

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営尼崎西川住宅第2期建築工事	階数	地上8F
建設地	尼崎市西川一丁目54番、55番	構造	RC造
用途地域	第3種高度地区、準防火地域	平均居住人員	56人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年1月17日
敷地面積	7,002㎡	作成者	株式会社早川総合設計 早川 基
建築面積	368㎡	確認日	2022年1月17日
延床面積	2,514㎡	確認者	株式会社早川総合設計 早川 基



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	周辺地域への日影の影響範囲を抑制するために住棟配置を南北長辺型に計画し、団地内でコミュニティ活動などが身近に感じられるよう、『コミュニティプラザ』や広場を整備。省エネ型設備機器(高効率給湯器、節水型便器等)の採用等により、環境負荷の低減と低炭素化に取り組んでいます。	その他 特になし
<b>Q1 室内環境</b>	居住部分の開口は大きく設け、自然光及び自然風を取り込めるように配慮したほか、高遮音性能とすることで、豊かな居住環境を形成している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内に緑化を計画し、季節を感じられるよう樹木を配置した。
<b>LR1 エネルギー</b>	省エネ機器の採用、専有部の断熱性能を確保し、冷暖房負荷を押さえることで、環境負荷の低減を図っている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> を低く抑えることにより、長年にわたり環境負荷を軽減し地球温暖化の防止に付与できる建物となるように配慮した。
<b>Q2 サービス性能</b>	配管材料については耐久性の優れた材料を採用し、性能が長期間にわたり保たれるように配慮した。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	特になし	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される